



ふじのくにユースネット

FUJINOKUNI YOUTHNET

特集を Check !



わたしの主張2026 静岡県大会を開催しました

令和8年6月11日に総会と情報交換会
が開催されました



11月はこども・若者育成支援推進強調月間です

静岡県青少年育成会議では、こども・若者たちの明るい未来のため、「地域のこどもは、地域の大人が育てる」をテーマに、毎年県大会を開催しています。

静岡県大会 in 磐田市

開催日： 令和8年11月23日(祝・月)

会 場： 磐田市民文化会館「かたりあ」

講 師： 山田 大記 NPO法人ReFrame 副代表

演 題： ダウン症の息子と共に歩む

／地域の子どもはみんな育てる

～Contents～

P.2-3 特集

わたしの主張 2026 静岡県大会

- ・最優秀賞作文
- ・出場者発表要旨

P.4

県民運動推進事業費補助金交付事業のご紹介



第48回わたしの主張 2026

～今、中学生が伝えたいこと～

最優秀賞

静岡県大会 in 三島市

開催日：令和8年8月20日（木）

場 所：三島市民文化会館

応募者数 8,002 点から 13 人が県大会に出場しました！

「失敗」は「データ」である

浜松市立中郡中学校 3年 鈴木 麻央

みなさんは「失敗」という言葉を聞くと何をイメージしますか。テストの点数が悪かったとき、部活動の試合に勝てなかったときなど自分の理想と異なった結果をイメージする人が多いのではないのでしょうか。世の中では一般的に、「失敗」は恥ずべきこと、避けるべきことあるいは隠すべきことだと思われがちです。しかし、本当にそうでしょうか。

私は陸上競技の走高跳を通してこの「失敗」という言葉の意味を深く考えるようになりました。走高跳は他の多くのスポーツとは異なる、決定的な特徴を持っています。それは、競技の最後は必ずバーを落とす「失敗」で終わる競技だということです。どれほど自己ベストを更新しても、超えられない高さに直面した瞬間にその日の競技は終了します。つまり、走高跳という競技は、本質的に「失敗すること」を前提として成り立っているのです。

しかし、私は最初からこの失敗を前向きに受け止められたわけではありません。最初の頃は、失敗への恐怖や恥ずかしさから、満足に練習すらできませんでした。上手な先輩や自分と同じ時期に始めた同級生たちは、次々と記録を更新していきます。焦りと劣等感の中で、まだ成功したことのない高さに挑むときは、目の前のバーが巨大な壁に見えてしまい、体にブレーキがかかってしまいました。実際、練習や大会では、勢いよく助走を走っていったのに、直前で怖くなって跳ぶのをやめてしまったことがあります。痛い思いはせず、格好悪い姿を見せることも避けられました。しかし、私の心に残ったのは安心感ではなく、自分の弱さから逃げてしまった言葉にできないほどの悔しさと強い心残りだけだったのです。このとき、大切なことに気がつきました。体に痛みを受けなかったとしても、挑戦することから逃げた記憶こそが、自分の心に最も深い傷を残すのだということです。一度も跳ばなければ痛い思いはしませんが自分がなぜ超えられないのかという原因を知ることもできません。つまり、失敗を恐れて挑戦しないことこそが、成長のチャンスを自分でなくしてしまう「本当の失敗」なのだと、私は身をもって知りました。

では、成功しなかったとき私たちはそれをどう捉えるべきなのでしょう。

実は、このことは科学的にも証明されています。東京大学大学院の池谷裕二教授らの研究によれば、脳は成功した時よりも、失敗した時の方がより多くの情報を処理し、学習することがわかっています。上手くいっているとき、脳は現状に満足してあまり働きません。しかし、予想外の失敗に出会ったとき、脳は「なぜ」の原因を突き止めようと、フル回転で活動を始めるのです。つまり、失敗とは脳が最も成長している瞬間であり、一歩前へ進むために不可欠なステップなのです。

これらの研究結果は、私の走高跳と完全に一致します。私にとっても、落としたバーは「失敗」ではなく、次に成功するにはどうしたらいいかと考えるきっかけをくれる、貴重な「データ」です。助走のスピード、踏み切る位置、クリアランス。成功しないまでは分からなかった問題点が、バーを落としたことではっきりと見えてきます。そのデータを基に修正の計画を立て、次のジャンプに挑戦するのです。

このように、上手くいかなかったことをただの「失敗」にして終わらせるのではなく、成功へと繋げる「データ」と呼び替える。そんな考え方を持つことができれば、私たちは目の前の壁にぶつかるたびに、それを成長のチャンスに変えていくことができ、今よりももっと高く跳べるはずですよ。



最優秀賞は、全国大会出場候補として
関東・甲信越静岡ブロックへ推薦されます！

主催 静岡県教育委員会
静岡県青少年育成会議
独立行政法人国立青少年教育振興機構
共催 三島市教育委員会

後援 静岡県校長会
公益社団法人静岡県私学協会
静岡県 PTA 連絡協議会
静岡県私学保護者会
協賛 静岡県遊技業協同組合

優 秀 賞



心のバリアフリー

三島市立中郷西中学校 3年 岩崎 伶音

人を見ただ目で判断したり差別したりしてはいけなと誰もがわかってると思ひます。しかし、何気ない一言や、よかれと思つてたことが差別を生み出すこともあります。他者も自分も、人と違ふということの捉え方を見直し、差別や偏見のない、心のバリアフリーが進んだ社会を願つています。



(笑) からの自立

吉田町立吉田中学校 3年 伊藤 逢乃

大会での敗北や友人とのけんかに直面した時、傷つくのが怖くて(笑)を使って本音をごまかしてきた私。でも友人への謝罪に(笑)をつけて失敗したことで、便利さに頼りすぎていたと気づきました。直接言葉を交わした時、心が通じ合い、面と向かつて伝える大切さを実感しました。



落語で広がる想像の世界

磐田東中学校 3年 大石 歩実

落語と出会い、説明がなくても自分で場面を想像する力の大切さに気づきました。便利な情報に頼りすぎると考える力が弱まる不安も感じます。落語の「不便さ」は自由な想像を生み、感性を育てます。疑問をもったとき、これからはすぐに調べず、自分で考える時間を大切にしたいと思ひます。

優 良 賞

2 / 9000

三島市立錦田中学校 3年 杉山 姫花

私はユウとハルという二匹の保護猫との出会いから命の尊さを学びました。人と動物の命の重さに違いはありません。「みんな違ってみんないい」を動物にも向け、「かわいそう」ではなく「かわいい」を合言葉に、目の前の一つ一つの命と向き合ってみませんか。

※共感賞※

動ける即戦力

伊豆市立伊豆中学校 3年 木村 謙心

高齢化が進んでいる伊豆市では、現在行っている防災訓練だけでは、全員が安全に避難をすることはできません。ジュニア防災士と普通救命講習の資格を取得した私たち中学生は、「動ける即戦力」として、大人と共に実践的な訓練を行い、地域防災を支えていきたいと考えています。

戸田で生きる 戸田と生きる

沼津市立戸田小中一貫学校 9年 長島 光希

人口減少が進む沼津市戸田には、不便だからこそ守られた美しい自然と二千人の家族のような絆があります。私はこの町の魅力を発信し、共に歩むファンを増やしたいです。たとえ将来この地を離れても、胸に戸田の空気を宿し、この温もりと美しさを語りながら共に生きていくと誓います。

一本の傷跡と「当たり前」の奇跡

御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校 3年 秋野 瑠花

側弯症の手術とリハビリを通して、歩くことや食べることなど、日常の一つ一つは「当たり前」ではなく、多くの人の支えによって成り立つものだと学びました。この経験を生かし、将来は、患者さんの心に寄り添い、誰かの「当たり前」を支える医療従事者になりたいです。

「保身」から「勇気ある配慮」へ

富士宮市立富士根北中学校 3年 栢原 空遥

「空気を読む」ことは、人間関係を円滑にする一方で、時には人を傷つける「凶器」にもなります。私は自身の経験をもとに、本当に必要なのは空気に流されるのではなく、自分の意志を持ち、相手を思いやる「勇気ある配慮」であることを伝えます。

中学生審査員代表



共感賞とは…

来場した中学生が投票して選ぶ特別賞です！

五百四十

浜松学芸中学校 3年 田中 美結

小学校時代の署名活動の経験をふまえ、遠州灘野球場建設に反対する立場での主張です。アカウミガメの生態系を守る環境保護、私たち世代への負担となる巨額の建設・維持費の削減、津波の脅威から命を守る防災の観点から、この美しい自然をありのまま未来へ引き継ぐ責任を力強く訴えます。

効率にはもうとらわれない

静岡大学教育学部附属浜松中学校 3年 鈴木 心乃

現代は効率を優先し、短時間で結果を求めることが当たり前になりました。しかし、効率を求めるあまり、私たちは感動や他者の思いに触れる機会を自ら手放してきたように思ひます。想像力は他人の心を理解する唯一の手段です。非効率な時間こそ人間性を育み世界をより豊かにするのです。

嘘

静岡市立豊田中学校 3年 大橋 和航

嘘には「必要な嘘」と「悪い嘘」の2つがあると思ひます。この2つには明確な判断基準がありません。嘘をついた人とつかれた人では感じ方が異なるからです。嘘は人を笑顔にさせる力も、傷つける力も持っています。嘘とどう向きあうかを考えることが、よりよい社会をつくっていくと思ひます。

人と過ごす時間

静岡市立清水第七中学校 3年 千島 友羽

身近な人の病気や突然の死から、時間は永遠でないと感じました。後悔なく生きるため、「一日一日が楽しかったと思えるように過ごせばいいんだ!」と気づき、どんな日でも家族に話して心を軽くしています。誰かと過ごす時間を大切に、明日への楽しみを胸に生きることを呼びかけます。

プログラム表紙挿入イラスト
(三島市立錦田中3年 富澤瑛琉さん)



大会当日のアトラクションとして、しゃぎりフェスティバル実行委員会の皆様に「しゃぎり」を披露していただきました。

県民運動推進事業費補助金交付事業のご紹介

青少年育成県民運動の積極的な展開を図るため、昨年度、青少年健全育成事業に携わる9団体に対して、最大で3万円の補助金交付を行いました。ユースネット182号に続き、交付を受けた一部の事業を紹介します。

ユースネットふくろい

子ども・若者の居場所「みんなの夢応援プロジェクト」

「若者の居場所」では、困難を抱える若者とそれを支援するサポーターが集い、日頃の支援の様子や今の思いなどを語り合います。また、「こどもの居場所」では、放課後の小学生、中学生が自由な時間に好きな事をして過ごせる空間を提供しています。



下田市青少年健全育成連絡協議会

下田市青少年補導センター合同研修会

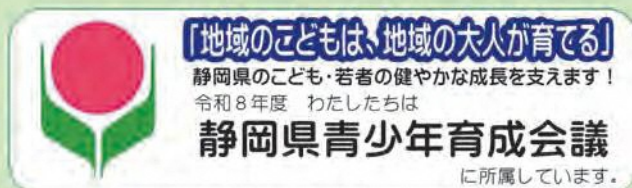
スマートフォンやSNSの普及により、こどもたちを取り巻くデジタル環境は大きく変化しています。昨今問題となっているSNSを介した青少年の犯罪被害の傾向や、未然に被害を防ぐため、まずは、家庭でスマホルールを決めることが大切と学びました。



レク楽の会

レク楽のひろば「まちなかでキャンプをしよう！」

今年の夏休みのレク楽のひろば「まちなかでキャンプをしよう！」は浜松市立青少年の家で手打ちうどんづくりやダッチオーブンでカレーづくりなどを行いました。参加人数が暑さのためか、少なかったですが、その分参加者同士で和気あいあいとすごすことができました。



静岡県青少年育成会議では、正会員・賛助会員を募集しています。

県内で青少年の健全育成に取り組んでいる団体・個人の皆様、お気軽にお問い合わせください！

【編集・発行・入会問合わせ】

静岡県青少年育成会議事務局 静岡県教育委員会社会教育課内
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
TEL 054-221-3305 FAX 054-221-3362
Email kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

